

# プロ野球監督の 楽観主義と勝率との関係

—新聞記事の監督コメントのCAVE法による評定より—

二川優太(和光大学)・佐竹広太<sup>#</sup>(和光大学)  
・いとうたけひこ(和光大学)

日本教育心理学会第54回総会 ポスター発表E  
2012年11月24日16:00～18:30  
琉球大学 中央食堂ホール

# 【問題】

- セリグマン(1994)は、米国のプロ野球監督を対象に楽観主義とチームの勝率との関係についての研究を1986年と翌1987年に2度実施した。結果は、楽観主義が高い監督のチームは、成績が良く、次のシーズンの成績も良くなった。逆に悲観主義の監督のチームは、成績が悪く、次のシーズンの成績も落ちた。
- 楽観主義と試合成績の関係は日本のプロ野球では、どうなっているであろうか？

# 【目的】

- 監督の試合後の勝敗の帰属の説明スタイル (Seligman, 1994)をCAVE法(渡邊・いとう・井上,2010:内的的・外的, 永続的・一時的, 普遍的・特定のの3つの側面からの分析によって, その人の楽観主義を測定する手法)により評定して、そのチームの勝率との関係を観ることが本研究の目的である。

# CAVE法

## 勝ち試合の場合

- 勝ち試合の楽観主義

勝った要因を、自分のチームについて語り(内的)、またチーム全体にその要因に求める(普遍的)。さらに勝つことを続くものとして考える(永続的)。

- 勝ち試合の悲観主義

勝った要因を、自分のチームではなく、他の所に求め(外的)、またその要因を特定する(特定の)。さらに、勝ったことを一時的なものとする(一時的)。

# CAVE法

## 負け試合の場合

- 負け試合の楽観主義

負けた原因を、自分のチームではなく、他に求め(外的)、さらに、その原因を特定する(特定の)。また、負けたことは今回だけのことと考える(一時的)。

- 負け試合の悲観主義

負けた原因を、自分のチームに求め(内的)、さらに、その原因をチーム全体に求める(普遍的)。また、負けることを続くものと考え(永続的)。

# 【方法】

- 研究対象:「スポーツニッポン」「日刊スポーツ」「スポーツ報知」「産経スポーツ」の4つのスポーツ新聞に掲載された、12球団の監督の試合後のコメント記事。
- 2011年4月13日より2011年10月26日までの新聞各社のコメント記事を対象とした。
- コメントは全部で5456記事であった。うち引き分け373記事は分析の対象外とし、勝ち監督2380コメントと負け監督2702コメントを分析の対象とし、CAVE法を用いて分析した。

# 【結果と考察】図1

## 勝ち試合の楽観主義

- セ・パ両リーグの優勝チームの落合、秋山両監督の楽観度は各リーグのトップの楽観度である。
- 全ての監督に、連勝や順位が上がったりすると、コメントの楽観度が高くなる傾向が見られた。
- この結果、楽観度の高い監督のチームは、勝率が高く、よい成績を残しているという関係が明らかになった。

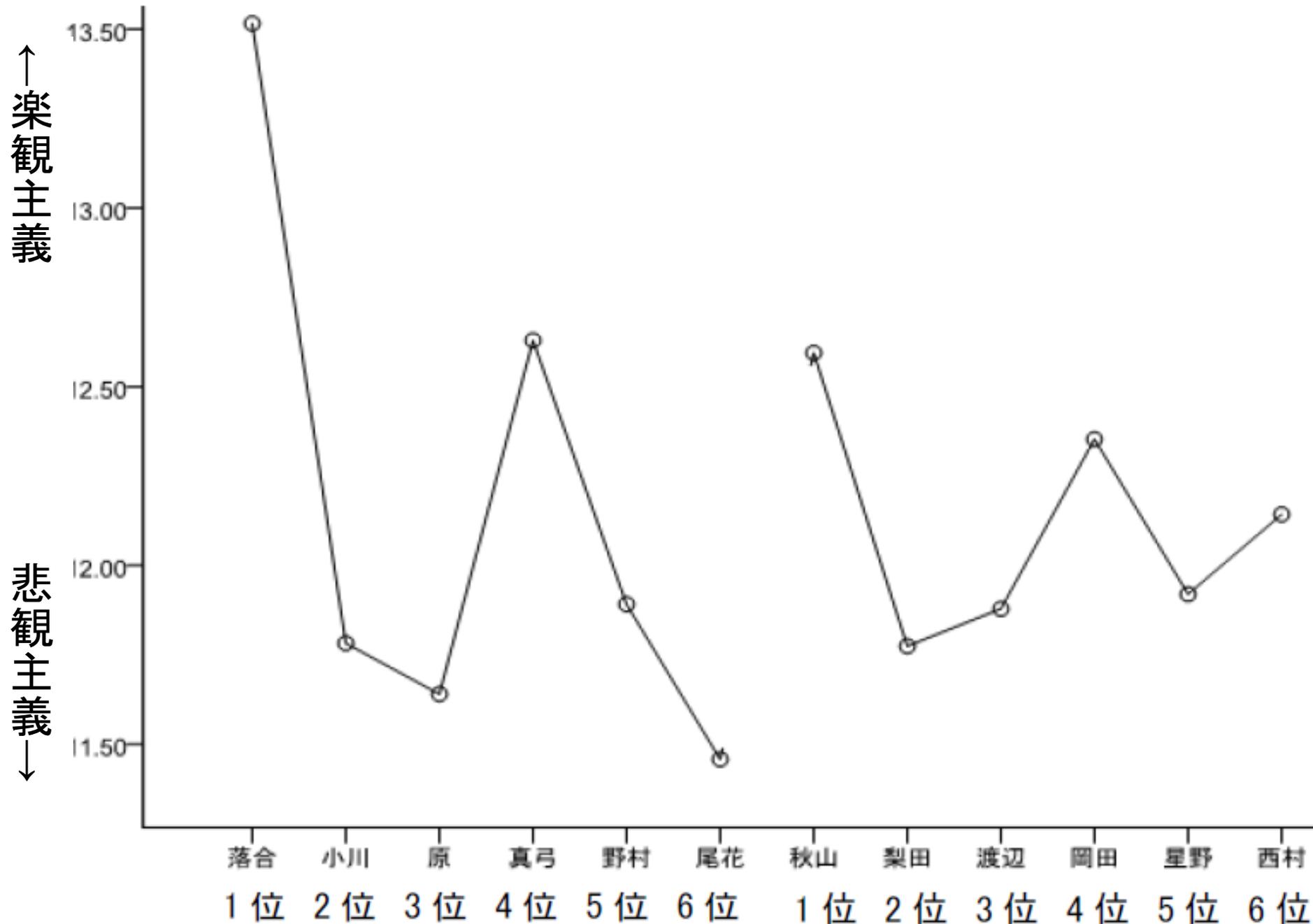


図1 セパ野球監督の勝利試合の楽観主義説明スタイル

# 【結果と考察】図2

## 負け試合の悲観主義

- セ・パ両リーグの最下位チームの尾花、西村両監督の悲観度はリーグの中でも高い。
- 他の、勝率が低い監督の悲観度も高いことが分かる。
- 負け試合のコメントも、連敗が続いたり、順位が下がった日のコメントは悲観度が非常に高かった。
- しかし、セ・リーグ優勝チームの落合監督は、ほかの監督とは違う傾向がある。勝率が高いにもかかわらず、負け試合でのコメントの悲観度が高いのである。楽観主義であり、悲観主義であるデータが出た。
- この結果、落合のような一部データは特別なケースとして、悲観度の高い監督のチームは、勝率が低く、悪い成績を残しているという関係が分かった。

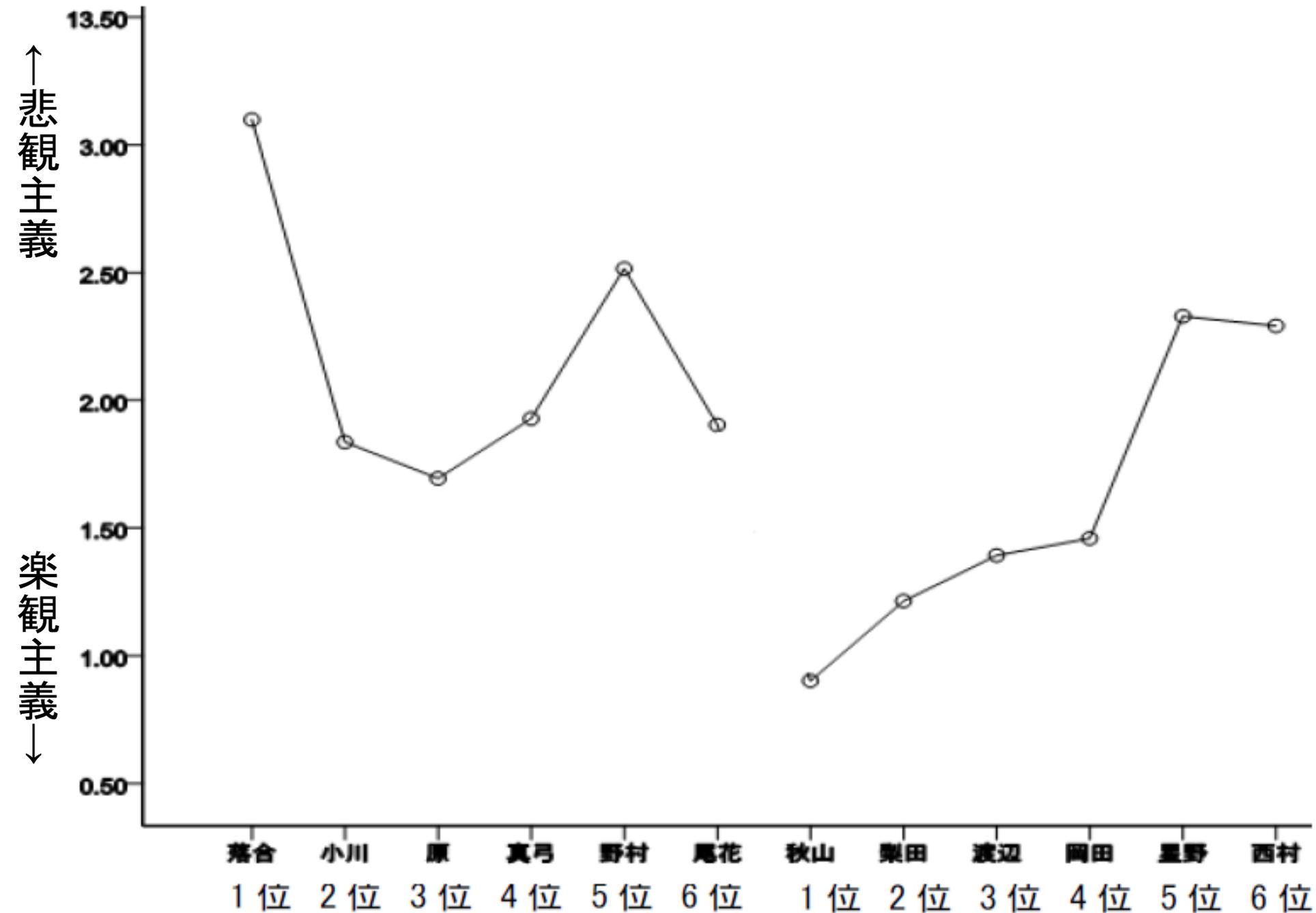


図2 セパ野球監督の敗北試合の悲観主義説明スタイル

# 【テキストマイニングによる分析】 各監督の発言の特徴と成績との関係

- テキストマイニングにより、各監督12名の発言の特徴を、明らかにする。
- 勝敗別に試合後コメントを分析対象とし、勝ち試合と負け試合において、各監督が発する発言の特徴を分析する。
- 12球団の言葉の特徴と成績を比較し、関係性を明らかにする。

# テキストマイニングとは

- 定型化されていない文章の集まりを自然言語解析の手法を使って単語やフレーズに分割し、それらの出現頻度や相関関係を分析して有用な情報を抽出する手法やシステム。
- マイニング(mining)とは「発掘」という意味で、テキストの山から価値ある情報を掘り出す、といった意味が込められている。データマイニングの手法の一種である。

# 中日ドラゴンズ 落合博満監督

セ・リーグ

2011年 第1位

2012年 退任(第2位)

- 勝ち試合コメントは、主に自分のチームのことに  
ついてコメントしている。中でも「試合」「仕事」など  
といったチーム全体を対象とした発言が多かった。  
また、気持ちといった内的な側面ではなく、事実  
に基づいたチーム全体のことを語る特徴がある。
- 負け試合においても自分のチームのことを語る特  
徴があった。勝ち試合と同様に、「試合」「ゲーム」  
といったチーム全体についての発言が多く見られ  
る。また、「経験」や「勉強」といった、負けた試合で  
の内容をプラスに捉える発言が見られた。
- 勝ち試合、負け試合ともにチーム全体についての  
発言が多いことが、落合監督の発言の最も大きな  
特徴である。



# ヤクルトスワローズ 小川淳司監督

セ・リーグ

2011年 第2位

2012年 第3位



- 勝ち試合のコメントは、選手個人の名前の発言が多い。また、「大きい」という発言が特に多く、勝ったことを強調する特徴があった。「巨人」という発言も多く、1つ下の順位の巨人を意識したコメントが多い。
- 負け試合においては、選手個人の名前が少なる傾向がある。また、「負ける」「厳しい」という発言が見られ、勝ち試合同様に、負けたことを強調するコメントが特徴的である。さらに「阪神」という他チームのことが抽出され、★1つ下を★意識した発言も発せられている。その反面、「難しい」「切り替える」といった次の試合に向けての発言も見られる。
- 勝ち試合、負け試合とも共通で、勝敗を強調する発言が多く、自分のチームと近い順位のチームを意識した発言が多いことが、小川監督の特徴である。

# 読売ジャイアンツ 原辰徳監督

セ・リーグ

2011年 第3位

2012年 第1位



- 勝ち試合のコメントは、選手の個人名を発言する傾向があった。勝った試合では、その試合に活躍し記憶に残った選手の名前の発言するのが特徴である。また、その選手に対して「見事」「素晴らしい」という評価の発言も多く見られた。
- 負けた試合のコメントは、選手個人の名前よりも、チーム全体に対しての発言が多かった。また、「良い」「切り替える」「スタート」といった、次の試合に向けてのことばが多く見られる。原監督は、負けた試合においては、チーム全体について発言し、次の試合に向けたコメントを残す特徴がある。
- 勝ち試合においては、選手個人についての発言が多く、負け試合においては、チーム全体について発言することが、原監督の特徴である。

# 阪神タイガース 真弓明信監督

セ・リーグ

2011年 第4位

2012年 退任(第5位)



- 勝ち試合において、特に打撃に関する発言が多い。「新井」「金本」といったチームの主力バッターの発言や、「打つ」「4番」など、打撃について多くを語っている。真弓監督は、勝った試合において、攻撃についての発言が多くなる傾向があるようだ。
- 負けた試合においても、打撃に関する発言が多い。またチーム全体に対しての発言が多くなっている。「借金」「勢い」などはチーム全体に対する発言で、「点」「好機」などは打撃についての発言である。負け試合では、「僅差」という発言も見られ、他チームを意識しての発言も見られる。
- 真弓監督は、勝ち試合、負けた試合ともに、打撃面に関しての発言が多いことから、試合では、常に攻撃面を意識しているようだ。それに加え、負け試合の場合は、チーム全体に対する発言と、他チームを意識し発言が多くなるのが特徴である。



# 広島東洋カープ 野村謙二郎監督

セ・リーグ

2011年 第5位

2012年 第4位

- 勝った試合においては、投手の選手名の発言が多かった。特に「前田」「福井」といった先発投手の名前が多い。そしてチーム全体についての発言が極端に少ない。選手個人に向けられた発言、特に投手に対しての発言が多いのである。
- 勝ち試合コメントに対し、負け試合では、選手個人の名前ではなく、チーム全体、もしくは、打者や投手といった少し普遍的な発言が多くなっている。また、「ファン」「申し訳ない」といったファンに対しての発言が多いのも特徴的である。そして「勿体ない」「責任」といった、負けたことに対しての心情を表れる発言も見られる。
- 野村監督は、勝ち試合においては、主に投手について発言し、負け試合では、選手個人に対して発言することは少なく、普遍的な発言や心情的な発言、そしてファンにむけての発言が多いことが特徴である。

# 横浜ベイスターズ 尾花高夫監督

セ・リーグ

2011年 第6位

2012年 退任(第6位)



- 勝ち試合においては、投手についての発言が多い。投手個人の名前の発言が多く、さらに「投手」「投球」「先発」など、とにかく投手の活躍についての発言が多い。そして、チーム全体に対しての発言が極端に少ない。主に、投手個人についての発言が多いことが特徴である。
- 負け試合においても、投手に対しての発言が多かった。そして、「良い」という発言が多く見られ、負けた試合ではあるが、試合の内容は良いという意味のコメントが多いようだ。負けた試合の中にも、良かった点を発言する傾向があるが、同時に負けた原因を繰り返し発言する特徴もあった。
- 尾花監督は、勝ち試合、負けた試合ともに、投手についての発言が多く、負け試合においては、試合の内容に良い点を見つけ発言しつつも、負ける試合の原因が同じであることを繰り返し語ることが特徴である。

# ソフトバンクホークス 秋山幸二監督

パ・リーグ

2011年 第1位

2012年 第3位



- 勝ち試合は、多くの選手名が発言されており、投手も野手も含まれている。また、「良い」「大きい」という発言も多い。その他の発言は打撃陣に対する発言が多いようであるが、比較的自分のチーム全体のことをバランスよく発言する特徴があるようだ。
- 負け試合のコメントは、投手に関する発言が多い。特に「杉内」「摂津」といったエースの名前が多く発言されている。また、負けた原因を、相手チームの投手の調子が良かったからという発言が多く、それに伴い「しょうがない」という発言がある。秋山監督は、試合に負けたことを、あまり気にしていない様子が見えがえるコメントが特徴的であった。

# 日本ハムファイターズ パ・リーグ

## 梨田昌孝監督

2011年 第2位

2012年 退任(第1位)



- 勝ち試合のコメントは、選手個人の名前を発言する特徴が見られた。チームの中心選手の名前が多く、投手、打者ともバランスよく発言されている。また、その試合で活躍した選手についての発言が多いことが特徴的であった。
- 負け試合のコメントは、勝ち試合同様、選手個人の名前で発言する特徴が見られる。また、「痛い」「悪い」といった発言が多く、負けたことに対して重く受け止めている発言が多い。次の試合に向けての発言は極端に少なかった。
- 梨田監督は、勝ち試合、負け試合ともに選手個人の名前を挙げながら、その試合のみを対象とした言をする特徴があった。

# 西武ライオンズ 渡辺久信監督

パ・リーグ

2011年 第3位

2012年 第2位



- 勝ち試合のコメントは、「うち」「チーム」といった、チーム全体に対する発言が多く、チームの中心選手の名前、自分のチーム全体についての発言がバランス良く発言されている。また、「展開」「序盤」など、試合の流れを表す発言が多いのも特徴である。
- 負け試合においては、投手の名前が多く発言されている。打者については、「打線」といったやや普遍的な発言が多い。また、勝ち試合同様に試合の流れに関する発言が多かった。
- 渡辺監督は、試合の流れをふり返りながら、試合のポイントを踏まえ、具体的に選手の名前を挙げることで、チーム全体について発言していることが特徴的である。



# オリックス・バファローズ 岡田彰布監督

パ・リーグ

2011年 第4位

2012年 第6位



- 勝ち試合では、選手名が多く発言されている。また、勝った試合であるが、「辛抱」「ボール球(手を出さない)」といったチームの反省点を発言する特徴がある。そして、「1試合1試合」「積み重ね」といった、各試合を重要視した発言が多かった。
- 負け試合においての発言の多くは、その試合の反省点であった。また選手名は少なく、「打つ」「投げる」「振る」といった動詞が多いことも特徴的である。負けた反省点を、岡田監督は具体的な動詞で発言しているのである。
- 岡田監督は、勝ち試合、負け試合ともに、チームの反省点を具体的に表現し、毎試合反省をくり返しているのである。

# 東北楽天イーグルス 星野仙一監督

パ・リーグ

2011年 第5位

2012年 第4位



- 勝ち試合のコメントは、投手の選手名の発言が多かった。打者については「打つ」「返す」といった発言にとどまり、具体的な選手名は挙げられていない。また、「借金」という発言が多いことから、常に、自分のチームが負け越していることを気にしている発言が見られた。
- 負け試合では、「ダメ」という発言が特に多かった。負け試合について完全に否定している発言である。また、「おなじみ」といった、負け試合が多いことに対する発言が見られる。そして「うち」「チーム」などチーム全体についての発言がみられ、負けた原因を普遍的に捉えているようである。最も特徴的なのが、「淋しい」「情けない」といった心情的な発言が見られることである。

# 千葉ロッテマリーンズ パ・リーグ

西村徳文監督 2011年成績 第6位

2012年成績 第5位



- 勝ち試合において、特に多かった発言は「気持ち」であり、気持ちの面についての発言が多かった。また、「ファン」という発言が多いことも特徴である。そして、勝ち試合でありながら、「悔しい」という発言が多かった。
- 負け試合も勝ち試合のコメントと同様に、「気持ち」という発言を多かった。また、「相手」「向こう」など、対戦相手についての発言も多い。しかし、全体的には、自分のチームに対しての発言が多く、投手の名前が発言されている。
- 西村監督は、勝ち試合、負け試合ともに、選手の気持ちに注目した発言をし、チームの勝敗の要因を気持ちの面に求めていることが最も特徴的であった。



# 【考察】

- 最も特徴的だったのは、落合監督であった。勝ち試合、負け試合に関係なく、選手個人の名前を発言することは極端に少なく、チーム全体に対する発言が圧倒的に多かった。また、自分のチームについての発言しかなかった。
- 上位チームの監督は、勝ち試合のコメントにおいて、投手と打者の両方について、バランス良く発言していた。また、上位チームの監督は、負け試合においても投手と打者とでも、大きな偏りは見られなかった。
- 下位チームは、投手と打者の発言に大きな偏りがあった。特に、野村監督、尾花監督、星野監督は、投手についての発言圧倒的に多かった。真弓監督と岡田監督は打者についての発言に偏りがあった。
- パ・リーグ6位の西村監督は、「気持ち」という発言非常に多く発言し選手に内面的な部分を常に意識していた。

# 【文献】

- マーティン・セリグマン『オプティミストはなぜ成功するのか』 講談社 1994
- 渡邊愛祈・いとうたけひこ・井上孝代 『楽観主義内容分析法の説明スタイルに関する測定法：CAVE法（説明スタイルの逐語的内容分析）に着目して』 マクロ・カウンセリング研究 第9巻 p48-59. 2010
- 二川優太 『プロ野球監督の楽観主義』 和光大学卒業論文 2011（未公刊）
- 二川優太 『プロ野球監督の試合後のコメント内容と楽観主義』 数理システム学生研究奨励賞 2012（未公刊）